

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

阿部晶子

内坂信也

石坂郁代

稲本陽子

勝木準子

菅野倫子

倉内紀子

倉智雅子

佐藤睦子

椎名英貴

中村光一

長谷川賢一

原田由紀

原田浩美

春原則子

平島ユイ子

深浦順一

福岡達之

藤原加奈江

水田秀子

矢守麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木準

今夏は猛暑の日々が続き、日本だけでなく世界各地で高温や豪雨などの異常気象による被害が続出しました。「地球は沸騰化の時代に入った」という国連事務総長 Guterres 氏のことばは人々に衝撃を与えましたが、各国が協力して地球の sustainable に真剣に取り組む時期にあることをひしひしと感じます。

今号は、「第24回日本言語聴覚学会」の事後抄録と3編の論文を掲載しています。同学会は愛媛県言語聴覚士会（会長林田聡氏）の主催で2023年6月23・24日に松山市で開催されました。COVID-19の感染法上の位置づけが2類相当から5類に移行した後の開催で、この3年間で最多の来場者があったと聞いています。大会テーマは「改めて考える『つながり』の重要性～吾輩はSTである」であり、多彩なプログラムからなる活気溢れた学会でした。会場でマスクを外しての口演、直接対面しての質疑応答や久しぶりの知人との情報交換には感慨深いものがありました。

世界に目を向けますと、米国では「ASHA 2023」が11月にBostonで開催されます。この学会のWebでは「なぜ学会に参加するか?」について説明しています。ここでは学会に参加する意義は、“最新の研究について学び、臨床技術を拡大し、新しい成果(products)やリソースを見出し、同分野の人々と情報交換をし、これに加えて生涯学習の単位を履修する”ことにあるとしています。これはわが国の言語聴覚学会への参加についてもいえることであり、学会参加は最新の学術情報を得て知識・技術を高め、専門分野の人々が交流する貴重な機会といえます。

今号に掲載された原著論文は義歯装着と舌圧・嚥下機能等との関係を検討した論文、聴覚性注意検査の開発に関する論文の2編です。また症例報告として頭頂葉性純粋失書例が紹介されています。いずれも新しい知見を得た興味深い研究であると思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第20巻 第3号) 2023年9月15日発行 [年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 2,200円(本体2,000円+税10%)

2023年年間購読料: 8,250円(4冊, 税込, 送料販売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町6-29 アクロポリス東京9階

(☎03-6280-7628 FAX03-6280-7629) <https://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis

Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2023, Printed in Japan

制作・販売: (株)医学書院(代表: 金原 俊) <https://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

販売・PR部 ☎03-3817-5650 FAX03-3815-7804

印刷所 (株)真興社

広告取扱 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036 FAX03-3817-8044